

さらに広がる 公共下水道

公共下水道は、台所や風呂、トイレなどで使った水や、工場などから出る廃水を集め、処理場できれいに放流し、河川や海の水質を守ります。

水路をきれいにし、悪臭やハエ・蚊の発生を防ぐなど、私たちの健康で快適な暮らしを支える大切な施設です。

公共下水道の役割を十分に生かすため、事業の推進にご理解とご協力をお願いします。

■処理区域の広がり

- ・廿日市処理区 約12ヘクタール（約1020ヘクタール）
- ・佐伯処理区 約2ヘクタール（約164ヘクタール）
- ・大野処理区 約3ヘクタール（約351ヘクタール）

※（一）内は、全体区域面積
※処理区域は、お客さまセンターで確認できます

■公共下水道への接続

新たに処理区域に編入した家庭で、浄化槽を使っている場合は速やかに廃止し、公共下水道へ接続してください。また、くみ取り便所は、3年以内に水洗便所に改造して公共下水道へ接続してください。

※処理区域では、新たに浄化槽やくみ取り便所を設置することはできません

■指定工事店での排水設備工事

公共下水道への接続に必要な排水設備の工事は、市が指定した下水道排水設備指定工事店で行ってください。

指定工事店以外での工事や無届け工事は、行わないでください。

■下水道接続促進補助金

公共下水道を利用できるようになった日から、3年以内にくみ取り便所を水洗便所に改造し、または1年以内に浄化槽を廃止して、公共下水道への接続工事を完了する人は、一定要件のもと補助金交付の対象となりますので、指定工事店を通じて申請してください。詳しくは、営業係まで問い合わせてください。

■補助金額

1件あたり10万円以内

■下水道使用料

公共下水道への接続が完了し、下水道の使用を開始すると、「下水道使用料」を納めることとなります。これは、下水道管の清掃や補修をはじめ、処理場や汚水中継ポンプ場の運転、施設の維持管理

費用などに使われます。

■受益者負担金（分担金）

公共下水道が整備されることにより、土地の所有者などの利益を受ける人（受益者）には、汚水管整備費の一部を負担してもらうことになります。

令和5年度中に、前面道路に下水道の本管工事が完了した土地は、令和6年4月から、受益者負担金（佐伯処理区の場合は受益者分担金）の賦課対象区域となります。この区域の土地所有者には、5月上旬に受益者の申告書などを送付します。

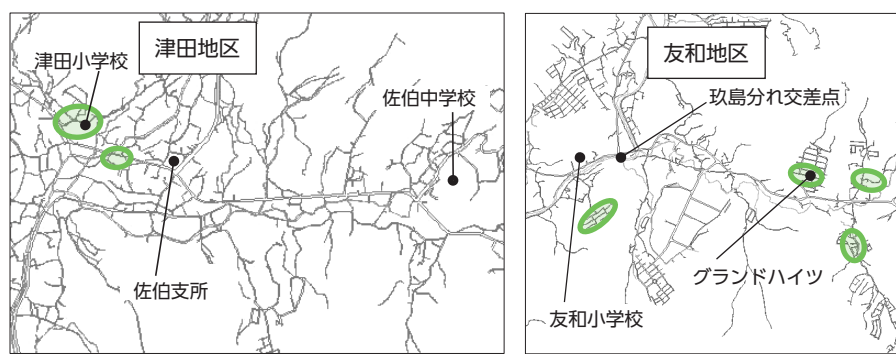
申告書に記載してある期限までに、必要事項を記入した書類を営業係に提出してください。

■合併浄化槽設置費用の補助

公共下水道が整備されない地域などで、住宅に設置されているくみ取り便所や単独浄化槽を合併浄化槽へ付け替える場合と、新築に伴い浄化槽を設置する場合に、設置費用の一部を補助しています。詳しくは、営業係まで問い合わせてください。

■工事予定箇所

令和6年度は、図の緑で示している箇所、下水道管の敷設工事を計画しています。工事のための通行規制などをご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。工事箇所は予定です。詳しくは、工務係まで問い合わせてください。



みんなが手をつなぐために

問い合わせ 人権・市民生活課 ☎9136

令和5年度全国中学生人権作文コンテスト法務副大臣賞受賞作文

全国中学生人権作文コンテスト（応募総数 76 万 1,947 作品）で法務副大臣賞を受賞した作品を紹介します。作文は、家族に真っ直ぐに向き合い考えたことや家族への思いが、社会へ向けたメッセージとともにつづられています。識者の話とともに、人権に関して考え行動する輪が広がりますように。

我が家の人権問題

廿日市市立中学校生徒

「LGBTQ」先日の広島サミットではようやくこの議題が取り上げられ、世の中では理解が進みつつあるようだ。そんな中、私の家では妹がその当事者になり、そのことについて考える機会が増えた。

妹は、もともと可愛いものより格好いいのが好きだった。

（中略・・・さまざまな彼女の行動により）私はやっと彼女がLGBTQに当てはまると理解した。それまでの私は妹の性自認が男だと気付けていなかった。

次から次へと私たちが驚く行動をし、今までの妹を知っているからこそ、それらの行動にショックを受け「元に戻ってほしい」と思ってしまった。

私は、今までLGBTQに対する偏見はないと思っていた。しかし、いざ身内がそうなるかどうか定的なことを言ったり考えたりしてし

まうことに気が付いた。例えばテレビに性的マイノリティの人が出ていても変だとは思わない。むしろそういった人たちを批判する人たちが許せないと思える。ただそれが身内だと、「きつと気の迷いだろう」「元の妹に戻って！」と思ってしまう。このようにして私も家族も、妹を知らず知らずのうちに傷付け、追い詰めていたと思う。私は、差別なんてありえないと思っていたのに、一番身近な家族にそんなことを思ってしまった。そして、そんな自分にとっても驚いた。「そのままでもいいよ」と受け入れるべきなのに。性的少数者が生きづらい理由の一つは、こうして家族からも否定されることにあるからだと理解した。

私は妹のことで、LGBTQの問題を身近に感じる事ができた。おそらく世の中には、私のようにLGBTQのことを理解している「つもり」の人がたくさんいると思う。しかし、自分の周りにそう

いった人が現れたら、否定的なことを言ったり思ったりすると思う。それは仕方ないことかもしれない。ただ、それは私のようにその人を傷つけてしまうことになる。そんな理解した「つもり」をなくすために、まず、自分自身や身近な人がそうだったら・・・と色々な想像をしてみてほしい。

世の中には、LGBTQに限らず、あらゆるマイノリティの人たちが生きづらさを抱えて暮らしている。妹も家で、学校で、一日中生きづらさを感じている。私は、SDGsでもうたわれた「誰一人とり残さない世の中」になることを願い、自分自身そういった人たちに起こる問題を理解し、私の正しいと思う行動をしていきたいと思う。そして、皆が同じような気持ちで、少しずつでも世の中が変わって、家が、学校が、会社が生きづらさを抱えた人にとって、優しい場所になっていくってほしいと思う。

家族から社会へと拡がる人権意識の大切さ

広島修道大学人文学部教授

河口和也

LGBTQ+という言葉はかなり浸透した。しかし、家族に性的マイノリティがいることは、容易に受容できるものではない。家族というのは異性愛でシスジェンダー※の集団である。性的マイノリティは、自分がそうであると意識したとたん、家族というマジョリティのなかで孤立する。性的マイノリティが社会で生きていくためには、いちばん身近な家族からの支援が、生きていく力を与えてくれるものとなる。隠し事や偽りなく、自分らしく生きていく力だ。

「権利」とは、人が自分らしく生きていく生活を守ってくれるもの。この権利という考え方は、家族生活ではあまりにも堅苦しく響くこともある。けれど、人には人権が賦与されており、それは家族のなかでも尊重されるべきものだ。ひとりひとりの人権の尊重は、社会においても、そして家族においても大切なことはいうまでもない。

性的指向や性自認について知ること、理解することへの第一歩になる。社会の人権問題に至る出発点は、家族の人権問題なのだ。

※生まれたときの性別と性自認（心の性）が一致している人